



## (69) 3Gサービス始動、課題は端末調達

野村総研(上海)咨询有限公司

年初の第3世代(3G)携帯電話のライセンス発行後、各キャリアではすでに3Gサービスの準備が始まっている。現状での3社の3G計画は表の通りである。

規格	サービス開始予定時期	主な課題
チャイナモバイル TD-SCDMA	10市で商用テスト	技術不安定、端末不足
チャイナテレコム CDMA2000	09年3月末	端末不足
チャイナユニコム W-CDMA	09年5月17日	統合後の組織再編

サービスの開始に伴い、中国移动(チャイナモバイル)と中国电信(チャイナテレコム)は深刻な端末不足に直面している。特にチャイナモバイルが調達するTD-SCDMA方式は中国独自の技術規格であり、国内メーカーを中心に十数機種しかなく、海外の主要な携帯電話メーカーのほとんどが静観する方針である。ユーザーからも端末に対する不満の声が聞かれている。チャイナテレコムが調達するCDMA2000方式にしても、採用している国が少なく(日本ではauが採用)、調達できるメーカーが限られている。この端末問題が現時点での3Gサービスのボトルネックになっている。

### ◇「0元端末」も登場

中国ではこれまで、携帯電話機の販売に通信事業者はあまり関わらず、端末メーカー主導の市場だった。2G時代は世界で最も普及しているGSM規格であり、市場に任せていても多くの端末が市場に投入され、普及したためである。しかし3G、特にTDにおいては、端末メーカーに任せては順調な普及は難しく、通信事業者自らが端末市場にかかわらなければならない状態になっている。

上海テレコムは1月末、期間限定で「0元携帯端末キャンペーン」を打ち出した。端末メーカーはモトローラと中興通信(ZTE)である。毎月の最低利用料が決められた限定プランに新規加入すれば、原価1000元~3000元の端末が無料で入手できる。

チャイナテレコムは09年3月末から100の大都市でCDMA2000の3Gサービス「189」の商用サービスを開始する予定である。しかし魅力的な端末が少なく、ユーザーの反応はいまひとつのため、端末を自ら調達し、「0元端末」戦略でユーザーを呼び寄せようとしている。

### ◇垂直統合モデルに脚光

チャイナモバイルが北京五輪期間中に行ったTD商用テストの評判はあまりにもひどかった。その原因は技術が未成熟であることはもちろん、最も深刻な問題は携帯電話端末である。そのためチャイナモバイルは100億円の資金を用意し、次のようなTD端末のてこ入れ策を検討している。

- a) 端末メーカーに開発資金を供与
- b) 端末メーカーが開発したTD端末をチャイナモバイルが一括購入
- c) 自ら端末を開発し、メーカーに製造委託

どの手法を取るにしても、チャイナモバイルが今後、端末市場で主導権を握っていくことは間違いないだろう。

日本と韓国では通信事業者が先導的に携帯電話市場を育成してきており、世界でも3Gサービスが成功している国である。NTTドコモは端末開発への投資やコンテンツ産業の育成、さらには顧客の携帯利用習慣の育成まで行っている。

この垂直統合モデルがそのまま中国で通用するとは断言できないが、3Gサービス開始をきっかけに、中国の通信事業者が日韓の運営モデルに目を向け始めたのは確かである。

(主任コンサルタント 吉永欣栄)